

令和7年度 鈴鹿市上下水道事業経営戦略（改定版）の検証について

1 概要

鈴鹿市上下水道事業経営戦略（改定版）において、毎年度の進捗管理（モニタリング）を通じて、投資目標及び財源目標の達成状況を定量的に検証しています。

2 投資目標及び財源目標の検証

（1）水道事業

【投資目標】

送水場と配水池の耐震化は、計画どおりに進んでいる。一方で、基幹管路の耐震化は、物価上昇などの影響による工事単価の上振れで進捗に遅れが生じており、目標を達成できない見込みである。

目標達成に向けた財源の確保に努めるとともに、効率的な施工手法の検討等を行う必要がある。

	実績値	目標値
	（令和7年度）	（令和8年度）
基幹管路（※）の耐震化率	44%	49%
送水場の耐震化率	79%	79%
配水池の耐震化率	96%	96%

※経営戦略（改定版）上の基幹管路には、配水幹線から重要施設までの配水管を含んでいます。

【財源目標】

資金残高は、目標値を達成できる見込みであるが、直近の物価や金利の上昇等を踏まえると、必要な運転資金の額の妥当性について継続して検討を行う必要がある。

一人当たり企業債残高は、目標値を達成できる見込みである。

	実績値	目標値
	（令和7年度）	（令和8年度）
資金水準の確保	32億円	15億円以上
1人当たり企業債残高	58,100円／人	約58,000円／人

(2) 下水道事業

ア 公共下水道事業

【投資目標】

事業に対する国の交付金が申請額に対して減額決定となったことや、工事単価が上昇したことで整備の進捗に遅れが生じているが、各普及率は最終年度に目標値を達成できる見込みである。

	実績値	目標値
	(令和7年度)	(令和8年度)
整備面積(累計)	2,391ha	2,506ha
下水道処理人口普及率	65.6%	67%
汚水処理人口普及率	94.9%	95%

【財源目標】

経費回収率は、公共下水道の整備に伴う使用料収入の増加などにより、令和4年度から令和7年度にかけて5ポイント上昇しているが、100%を下回っており、使用料収入で汚水処理費を賄えていない状況である。また、基準外繰入金は、企業債の元金償還金の減少などにより、令和4年度から令和7年度にかけて約2億3千万円減少しているが、依然として多額の基準外繰入金が発生している状況である。

両指標の改善のために、今後も引き続き経費削減に向けて取り組む必要がある。

	実績値	
	(令和4年度)	(令和7年度)
経費回収率の向上	90.4%	95.3%
基準外繰入金の抑制	4億3,520万円	1億9,697万円

イ 農業集落排水事業

【投資目標】

施設機能を保全するために必要な対策等を定めた最適整備構想に基づき、計画的かつ効率的に維持管理を行っている。また、物価上昇による費用の上振れはあるものの、計画値と概ね同水準で推移している。

	実績値(累計)	目標値(累計)
	(平成29年度～令和7年度)	(平成29年度～令和7年度)
維持管理費用の平準化	38.8億円	38.6億円

【財源目標】

経費回収率は、人口減少に伴う使用料収入の減少及び物価の上昇に伴う汚水処理費の増加などにより、令和4年度から令和7年度にかけて9.4ポイント減少しており、使用料収入で汚水処理費の半分も賄えていない状況である。また、基準外繰入金は、企業債の元金償還金の減少などにより、令和4年度から令和7年度にかけて約930万円減少しているが、依然として多額の基準外繰入金が発生している状況である。

経営健全化に向けて、今後さらなる経費削減と経営の効率化に取り組む必要がある。

	実績値	
	(令和4年度)	(令和7年度)
経費回収率の向上	57.6%	48.2%
基準外繰入金の抑制	3億4,054万円	3億3,125万円